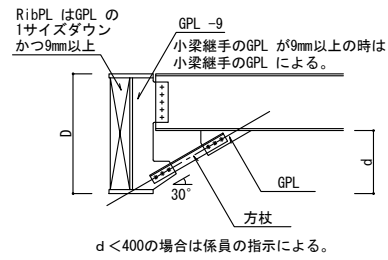


横補剛 a

該当する箇所に以下のいずれかを適用する。

(i) $d > 1/2D$ のときに適用

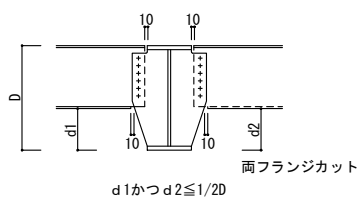


a タイプ

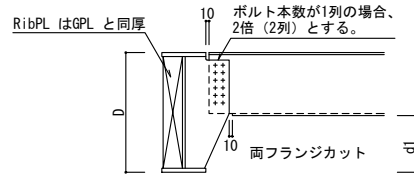
D	方杖	材質	継手
$D \leq 600$	L-75×75×6	SS400	G.PL-9, HTB 2-M16
$600 < D \leq 800$	L-90×90×7	SS400	G.PL-9, HTB 3-M16
$800 < D \leq 1000$	2L-75×75×6	SS400	G.PL-9, HTB 3-M16

(ii) $d1, d2 \leq 1/2D$ のときに適用

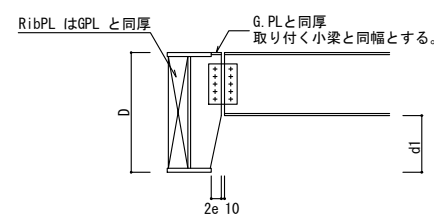
(ii-1) 取り付く小梁の継手が一面せん断 かつ両側に取り付く場合



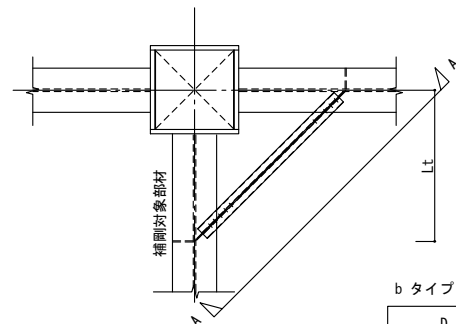
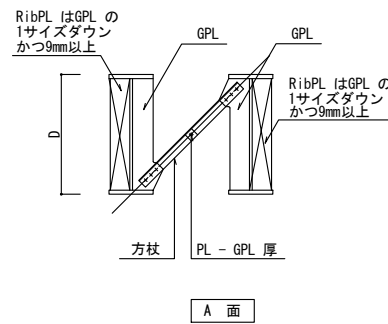
(ii-2) 取り付く小梁の継手が一面せん断 かつ片側に取り付く場合



(ii-3) 取り付く小梁の継手が二面せん断の場合 (両側に取り付く場合は、片側のみ適用する)



横補剛 b



b タイプ

D	方杖	材質	継手	L t
$D \leq 600$	L-90×90×7	SS400	G.PL-9, HTB 3-M16	1,200
$600 < D \leq 800$	2L-75×75×6	SS400	G.PL-9, HTB 3-M16	1,200
$800 < D \leq 1000$	2L-90×90×7	SS400	G.PL-12, HTB 3-M20	1,200

※1 上記横補剛材 a, b のうち、2枚合わせとしている部材ついて、ボルト間寸法が部材幅 $d \times 10$ を超えるものは、 $10d$ ピッチ以内で縦り材を設けること。縦り材は、摩擦面処理を不要とし、G.PL と同厚とする。(HTB : 1 - M16)
※2 G.PL が大梁フランジのS.PL と干渉する場合は、下記要領とする。

